

国際協力フェスタ

地球市民どんたく2008 報告書

あなたの一歩で、周りが変わる。
みんなの一歩は、世界を変える。

GLOBAL CITIZEN DON'TALK 2008

国際協力フェスタ
地球市民どんたく

入場無料!

【会場】
福岡市役所西側
ふれあい広場
北橋地区および周辺会場
福岡市中央区天神1-8-1

主催: 「地球市民どんたく2008」実行委員会、財団法人福岡国際交流協会
共催: 外務省、独立行政法人国際協力機構九州国際センター(JICA九州)、福岡市
後援: 朝日新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、特定非営利法人九州海外協力協会
協賛: (財)西日本国際財団
協力: アジア太平洋フェスティバル実行委員会、筑紫地区国際交流ネットワーク(春日市、大野城市、太宰府市、筑紫野市、那珂川町)、(財)太宰府市国際交流協会、前原市国際交流協会、宗像地域国際交流連絡協議会、志免町国際交流町民会議

2008 10/9 (木) ~ 13 (月・祝) 11:00 ~ 18:00

国際協力セミナー
NGO 活動紹介ブース
ワークショップ

地球市民どんたく2008

国際協力フェスタ

全体概要

実行委員会 (26団体+個人ボランティア21人)	連絡・情報共有
実行委員会代表者会議 (企画運営班正副リーダー)	企画に関する意志決定
運営委員会 (正副実行委員長、JICA九州、事務局長)	運営に関する意思決定
事務局 (財)福岡国際交流協会	

NGO活動紹介ブース

と き:2008年10月9日(木)～13日(月・祝) 11:00～18:00
 と ころ:福岡市役所西側ふれあい広場北側緑地 入場無料



ワークショップ「世界を体験しよう！」

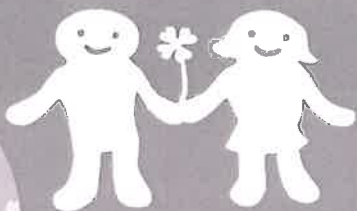
と き:10月9日(木)、10日(金)、13日(月・祝)
 と ころ:NGO活動紹介ブース



その他のイベント

外国人のための入国・在留・国籍に関する無料相談会

と き:10月12日(日) 11:00～16:00
 と ころ:レインボープラザ会議室(イムズビル8F)
 主 催:福岡県行政書士会
 内 容:日本での生活に必要な在留資格、家族の呼び寄せ、帰化申請、会社設立などについて、法律と手続きの専門家である申請取次行政書士が質問に答え、アドバイスを行った。(通訳付:英語、中国語)
 相談件数:12件



企画運営班

(ブース班、セミナー班)

イベントの企画・運営を行う

10年目を迎えた「地球市民どんたく」は、国際協力及びNGO活動に対する市民の関心を高め、NGOの相互ネットワークづくりを目的に、「NGO活動紹介ブース」「国際協力セミナー」「ワークショップ」を行った。福岡で活動中のNGO・国際交流団体と個人ボランティア及び(財)福岡国際交流協会で実行委員会を組織。そのメンバーは4月に一般公募を行い、5月の第1回実行委員会からスタートした。地球市民どんたくの最大の特徴は、「みんなで作る」ことである。イベントの企画・運営は2つの企画運営班「ブース班」「セミナー班」に分かれて行い、NGOスタッフ2人及び個人ボランティア21人の合計23人が参加した。また、イベント当日のボランティアとして67名(延べ117人)の参加があった。

20のブースにて、国際協力・国際交流を行う団体が、写真パネル展示、資料配付、民芸品の販売などを通じて活動紹介を行った。福岡市のアジアマンス行事「アジア太平洋フェスティバル」と同時開催となって3年目を迎えた今年は、5日間で26団体が参加し、来場者が「参加体験」できるブース展開をした。ボディペイントで顔に国旗を描きながら途上国での国際協力活動を紹介したり、水の入ったネパールの水がめを運び水汲みの大変さを体験したり、各団体の特徴が活かされ、来場者にも好評であった。物品販売では、フェアトレード商品など「商品をつくった“人”“地域”が見えるモノ」に人気があった。

ブースを回ることで、世界の現状の理解、市民の国際協力活動への参加へのきっかけづくりとなり、またNGO関係者同士の相互理解にも大きな力になった。

当日の運営は、実行委員会及び各企画運営班、当日運営ボランティアが中心となって行った。

【参加者及び支援の受付状況】

- 1 来場者数 約12,000人
- 2 寄付の受付状況 【募金】8,352円及び外貨 【切手】約17,000枚 【はがき】39枚 【カード】2,950枚

【来場者の声】

「直接聞きたいことを質問できて良かったです」「物品の販売は少しでも何かの役に立つ感じでよい」「クイズ楽しかった」「活気的で熱意が伝わりました」「色々なボランティア活動があることを知れて良かった」

世界の国々や各団体の活動について理解を深めるため、NGO活動紹介ブースにて、下記のとおり企画を行った。小さな子どもから大人までが参加し、楽しみながら国際協力・交流に触れることができた。

参加団体によるワークショップ

- 10月9日(木) ①(特活)グローバルライフサポートセンター
10月10日(金) ① 国連NGO世界平和女性連合
②(特活)九州海外協力協会
10月13日(月・祝) ①(特活)チェルノブイリ医療支援ネットワーク
②カンボジア地雷撤去キャンペーン

ヘナタトゥー体験

と き:10月9日(木) 11:00～18:00
参加費:ワンポイント200円
内 容:天然のハーブ「ヘナ」を使って、肌の表面だけを一時的にオレンジや茶色に染める、伝統のボディアート。約30人が参加。(協力:インド雑貨屋SUNDAR)

クイズ「世界の国からこんにちは」

と き:10月9日(木)、10日(金)、13日(月・祝)
内 容:世界各国のあいさつを使ったクイズ
延べ約500人が参加。
(地球市民どんたくブース班による企画)

インド民族衣装サリー着付け体験

と き:10月13日(月・祝) 11:00～17:30
参加費:200円
内 容:インドの民族衣装「サリー」の着付けを行い、インド文化や衣装に親しむことが目的。子どもから大人まで約190人が参加。サリーを着ての記念撮影も人気であった。(協力:インド雑貨屋SUNDAR)

地球市民どんたく2008写真展

と き:9月22日(月)～10月13日(月・祝)
ところ:レインボープラザ(イムズビル8F)
内 容:参加団体のうち9団体が、活動写真を展示。カンボジアでの地雷撤去の現場の様子、タイやフィリピンの支援先の子どもの笑顔、福岡での活動啓発の様子など、具体的に活動の様子が分かる写真は、訪れる多くの人たちの目を引いた。



と き:平成20年10月11日(土) 13:00～16:30

ところ:福岡国際ホール「志賀の間」(福岡市中央区天神1-4-1西日本新聞会館16階)

講師の皆さんの実践や体験談を伺いながら、「自分が変わる・自分を変える」
ことによって身近なところで気軽にできる国際協力について一緒に考えました。

講
師

川口 三男氏 外務省民間援助連携室長
星野 幸代氏 国際連合人間居住計画(ハビタット)職員
井上さやか氏 カンボジア地雷撤去キャンペーン2006年度現地駐在員
八田麻理子氏 環境教育インストラクター
(コーディネーター)
高橋 良輔氏 佐賀大学文化教育学部国際文化課程専任講師



第1部 講演(要旨)

●外務省基調講演:川口三男氏

日本は政府開発援助(ODA)として、途上国での協力・支援を行っているが、国際協力の目的は、途上国の人々が自立できるための支援である。共に、「人間らしく生きていこう」との思いが根底にある。途上国の発展、安定はひいては日本のためにもなる。

日本も、戦後、米国からの援助のほか世界銀行から借款を受け、新幹線や名神高速道路などを建設し、驚異的な経済発展の基盤を整備できた。また、日本は、インフラ整備を通じてインド、中国等の経済成長に貢献し、これらの国々の発展は日本企業が投資、進出できる機会にもつながっている。

国際協力の根底にあるものは、「他者を思いやる」心であると思う。これは普段の生活の中に存在するものでありながら、人間社会の根幹にかかわるもので、紛争や戦争をなくせる心、環境を思いやる心にもつながる。国際協力は、実際に途上国へ行かなくても、日本で得られる情報から想像を働かせることによって行動できる。特に若い人はそうであり、「知りたい」「やりたい」という意思が大切である。

日本政府とNGOとの連携・協力は必要であり、有益である。NGOは住民にきめ細かく援助できる長所を持っている。政府は、日本のNGOの能力向上のための事業(NGOへの資金協力、NGOと外務省との対話、NGOの相談員制度等)を実施している。

●星野幸代氏「国連ハビタットの活動と国際協力」

私は東京で外資系の証券会社に勤務していた。夫が勤務している神戸で阪神・淡路大震災を被災した。この時自分自身が被災者となった経験をふまえ、また大規模災害における災害弱者の存在を認識し、今度は自分が支援したいと思うようになり、国連地域開発センターの業務に携わりながら大学院に入って勉強し直した。その後2004年より国連ハビタット福岡本部に入所した。

国連ハビタットはまちづくりに取り組む国連機関だ。①全ての人々に適切な家と水を提供する、②住民の自立、自主的な活動を促すこと、等を目的にしている。

福岡本部はアジア太平洋地域の28カ国を担当している。設立は1997年8月で、現在職員23人、94の現地事務所です約2000人のプロジェクト職員が働いている。年間の事業費は約293億円である。

例えば、①アフガニスタンでは、約20の事業が動いており、約1000人が働いている。②2004年12月のスマトラ沖地震によるスリランカの津波被害の復興では、福岡市民を中心とした資金援助による住居建設で「福岡村」が造られ現在47世帯が住んでいる。③イラクの復興再建事業では、幼稚園、小学校、中学校等200校の学校再建事業、コミュニティ強化事業、インフラ整備事業などを行っている。

地元の人が自立、復興できるようにサポートしているが、国連の支援は恒久的なものではないため、国連の足跡を残さない自立復興を目指している。

●井上さやか氏「これって国際協力?～カンボジアとおきの島～」

私は23歳の時カンボジア地雷撤去キャンペーン(CMC)の現地駐在員としてカンボジアのバタンバンで約1年間のボランティア活動を行った。カンボジアでは、地雷が畑や庭などに至る所にあるため、1日に平均2人が地雷の被害にあっている。CMCは地雷に囲まれた地域の学校建設・運営や地雷被害者のためのラジオ放送、子供の地雷被害調査などを行っている。

私は、被害者のためのラジオ番組制作などに取り組んだ。被害者は差別をされており、心のケアをする必要があった。詩や手紙の朗読、被害者やNGOへのインタビューの番組などを行った。これらの支援を通して、最終的には被害者の自立を目指している。

カンボジアで仕事や生活をして感じたことは、①身一つで本当の生きる力を問われること、②日本のNGOは欧米に比べるとまだまだであること、③一人の力は大きい、でも一人ではできないこと、④本当に大切なもの、幸せとは何か、等であった。

帰国後、島根県隠岐島で教育委員会の仕事をしている。日本の流れは今、経済発展からスローライフに移っていると思う。隠岐島は、その流れの最先端になれる島である。島で感じることは、①やっぱり人は一人では生きられないということ、②人・自然・文化・暮らしは全部つながっているということ等である。

●八田麻理子氏「今ここで、はじめる、つづける」

環境に深く目覚めるきっかけは、青年海外協力隊として活動したインドネシアでの村の暮らしであった。ジャワ島最大の熱帯雨林に隣接する村だったが、乾期には井戸の水が涸れた。水不足に直面した生活を送って、はじめて水のこと、森のことを真剣に考えるようになった。人間にとって大切なものは水であり、森を守ることは水を守ることだと実感した。

インドネシアの熱帯雨林は消失しつつあった。そのスピードは世界一であった。外国に木材を輸出するためである。日本も輸入していた。違法伐採も多かった。

これらのことから、森・川・海の水のつながりと命のつながりに気づくことができるような環境教育をしたいと思うようになった。自分が住む地域の自然を五感で理解し、地元への誇りをもつことが、その後の行動を決める要素になる、と考えた。今年3月には、JICA青年研修事業などで環境教育を福岡市で行った。油山から樋井川、渡り鳥の来る和白干漏・アイランドシティを巡って森川海のつながりを感じる場をつくった。それぞれの場所で自然保全活動をおこなう市民グループから、今何が問題でどう対処すべきか、という話も聞いた。

今ここにあるものを知ることがすべての始まりである。福岡の人、子供たちにも身近な自然やそこに住む人、守る人を知ってほしい。そのことが、暮らしの中で、環境により行動を一步踏み出すきっかけとなる。先生は沢山いる。自然、自然と人、人と人。大切なのはそのつながりを五感で感じて行動することである。

地球市民どんたく2008



コーディネーター: 高橋良輔氏、パネリスト: 星野幸代氏、井上さやか氏、八田麻理子氏、コメンテーター: 川口三男氏

○(川口氏へ)福岡での国際協力セミナーについてコメントを
川口:福岡は国際協力や環境への意識が高いのではないかな、と思う。援助は人とつながりだと感じた。みんなが繋がって、つながりを通して何らかの形で国際協力を結びついてくるのだと思う。まず、知ることから始まる。知ろうという意識が大切だ。

○(井上氏へ)国際協力に関わるようになった「きっかけ」について

井上:■カンボジアに行ったキッカケ・CMCに関わったキッカケ

20歳でバックパッカーとしてカンボジアへ行き「あと何日でこの子は死んでしまうんだろう」と思うような女の子と出会ったこと。帰国後、(特活)NGO福岡ネットワークを訪問し、そこでCMCのことを教えてもらった。

井上:■島へ行ったキッカケ・カンボジアと海士町とのつながり

もともと自然との共生には興味があった。カンボジアの村と海士町は同じだと感じる。日本でも外国でも、自治、自立の力が必要だ。カンボジアの村も隠岐島でも自然とものすごく近い。山や海から食料を得て生かされている。自給自足でやっていく。輸入に頼らず日々の暮らしをどうにかする。これはCO₂の削減にも役立つ。

○(星野氏へ)国連ハビタットはその国を支援する場合、エリアをどう決めるのか、政府の承諾を得るのか。

星野:イラクの例で言うと、戦争終了後、国際社会が資金支援を名乗り出てくれた。国連と世界銀行が共同でイラク国内の被害アセスメントを行い、被害の範囲やレベルを分野別に分け、国連各機関で調整して支援分野や優先順位を決定した。国連との窓口はその国の政府であるため、イラク政府の合意の上で各事業を実施した。

○(川口氏へ) ODAは全て税金か。ODAの支援のやり方について国はどう選んでいるのか。ODAで負の効果が出た時はどうするのか。

川口:ODAは全て税金だ。その国の所得水準で区分する。有償資金協力が、無償資金協力が、技術協力が決める。ODAの負の効果では、環境問題が出ることもある。そのため、必ず環境アセスメントをする。インドの大きなダム建設では、住民移転が多すぎて、取り止めたこともある。

○(八田氏へ)インドネシアでは具体的にはどのような活動をやっているのか?

八田:住んでいる所を誇りに思うことが大切である。もともとインドネシアの子どもは、先進国の暮らしをしたいと思っている。私はインドネシアの子どもに絵を描いてもらった。その絵に描かれる山や川・海などを、日本人は守ってみたいと想っていることを伝えている。自分の村の暮らしを大事にして欲しい。それに気付いて欲しい。

○(井上氏へ)人間の限界とは?おばあちゃんの知恵とは?

井上:人間は、一人で生きてきたみたいな顔をしているけれど、ひとりでは生きていけない。森・風・土などの自然があり、都会は田舎に支えられていると感じる。田舎ではおじいちゃん、おばあちゃんの知恵が生かされている。例えばサザエカレーというおいしいカレーがある。海士町は、離島のため肉が入ってこない。あるものを工夫して生活する。環境を生かして暮らしている。

○(八田氏へ)環境に対して心がけていることは?

八田:グリーンコンシューマー(環境に優しいライフスタイルを求める消費者)やフェアトレード(公正取引貿易)を意識して買い物をする。スーパーで買物をしながら、森を守る人々のことを想う。また、フェアトレードマークのついた製品を探して買うようにしている。

○(皆さんへ)参加者に今日のセミナーを聞いて「私の行動宣言」を書いてもらうが、パネラーの皆さんが書いたものを、発表してください。

①「私が考える国際協力」

②「私が取組んでいきたいこと-今すぐできること」

③「私が取組んでいきたいこと-将来できること」

川口:①分野を問わず共に幸せを目指そうとする心、人間を信頼し、人の命を大切にすること、他者を思いやる心、そしてそれらを実行にうつす行動。

②日本のNGOを政府として応援すること。

③途上国でのボランティア。日本の子供たちと世界を語り考える塾の設立。

星野:①友人を思うように、②知ること、③自分で考えること、自分だったら何が出来るか考えること。

井上:①日々の暮らしを大切にすること。②出会いを大切にすること、表現すること。③子供に伝える、自然体験塾。

八田:①今ここでは始める・つづけること。どこにいても、どんな立場でもできることはある。②森・川・海のいのちのつながりに気づくことができるような環境教育。③現在やっていることを発展させて地域の中で、自然の中でアートを使った環境教育。

参加者の感想(抜粋)

【川口三男氏のお話について】

国際協力の根本的な部分を改めて考えさせられた。NGOの話もためになった。/国際協力の基盤となっているのは、「他を思いやる心」「他のことを考え行動する心」共感を得た。

【星野幸代氏のお話について】

国連ハビタットは身近な場所にありながらも、その活動をあまり知らなかったのを知れてよかった。また、星野さんご本人の体験からくる現在の活動への熱い想いに共感した。/震災についての話で、被害者は日本人だけではない、という事について考えさせられた。

【井上さやか氏のお話について】

カンボジアでの現地の生活を、スライド等を使って分かり易く説明していただけたので大変印象深かった。普段何気なく生活していると忘れてしまうようなことを思い出すことができた。/豊かすぎる現代を見直すことができた。

【八田麻理子氏のお話について】

「人はどん底まで落ちないと本気にならない」という言葉が印象的だった。環境問題についての話を聞いて、生活を見直そうと思った。/身近なことでも国際協力になるのだなと思った。/自然はすべて世界の問題なのだと思った。

【パネルディスカッションについて】

働く人、働く女性として共感・考えることができた。/様々な立場からのお話が一度に聞けて、面白かった。

【セミナー全体について】

それぞれ立場は異なっても、目指すものは同じだと強く感じました。自分も足元から行動したいと思う。/一口に国際協力といっても、多方面の人が関わっていて、身近な1つ1つの行動が国際協力につながるということを知った。

NGO活動紹介ブース 参加団体紹介



GLOBAL CITIZEN DON'TAKU 2008

国際協力フェスタ

地球市民どんたくとは?

国際協力・交流を行う26の団体が活動を紹介し、民芸品・飲食物の販売なども行いますので、お気軽にご参加ください。

※()内は活動紹介ブースへの出展日です。

※NPO法人(=特定非営利活動法人)は、(特活)と略表記しています。

福岡を拠点に国際協力・交流を行う団体が一堂に会し、活動を紹介します。楽しいプログラムもたくさん!「何かやってみよう」「どんな活動があるの?」「福岡のNGOをもっと知りたい」という方、ぜひご来場ください!

カンボジア地雷撤去キャンペーン(CMC)

TEL 092-833-7676 FAX 092-833-7677

URL <http://cmc-net.jp/>

「悪魔の兵器」地雷の被害と廃絶への取組

(10月9日~13日)

今なお続く地雷被害の現状と地雷撤去活動の様子を紹介、被害に苦しむ人々や、命懸けで撤去に挑む姿の写真パネルや地雷模型を展示。撤去本番さながらの実演をCMCスタッフが再現、楽しいゲームもあります。

ハピタット福岡市民の会

TEL 090-6770-2481 FAX 0942-41-2080

URL <http://cnhf.ngpo.jp/>

九州唯一の国連機関ハピタットの活動紹介

(10月9日~13日)

アジア太平洋地域の人間居住や都市の問題点とその解決法を勉強会や国連ハピタット職員との交流会およびスタディツアーなどを通じて学習し、市民レベルでの広報活動を中心に支援の輪を広げる活動を行っています。

(特活)KETOY.JP (キートイドットジーピー)

TEL / FAX 092-714-0758

URL <http://ketoy.ngpo.jp/>

日本とバングラデシュの架け橋にあなたから...

(10月9日~13日)

バングラデシュの貧しい層の人々に対して、その人々が作る手工芸品、生活雑貨の輸入販売に関する事業を行い、バングラデシュの職人の職場を確保し、生活の安定をはかり、子供たちに教育を受ける機会を与える事に寄与する。

(特活)NGO福岡ネットワーク

TEL / FAX 092-405-9870

URL <http://funn.ngpo.jp/>

福岡から世界へ、世界から福岡へ。

(10月9日~13日)

国際協力・交流の各分野で、地球市民的観点から活動に取り組む団体・個人のネットワーク組織です。国際協力の写真・関連書籍物品など展示販売、加盟団体の活動紹介、NGOに関する問い合わせ回答など行ないます。

福岡国際関係団体連絡会(フクネット)

TEL 092-733-5630 FAX 092-733-5635

URL <http://fukunet.ngpo.jp/>

活かそうネットワークを! 深めよう連携を!

(10月9日)

福岡地域で活躍する国際関係団体相互の情報交換や連携を深めることを目的に1987年に設立しました。ブースでは、会の紹介と会員団体それぞれの活動内容をPRしております。一度にたくさんの情報が得られます!

(財)釜山広域市国際交流財団

TEL 82-51-888-6657 FAX 82-51-888-6659

URL <http://www.bfia.or.kr>

ようこそ、国際都市BUSANへ!

(10月9日)

釜山広域市姉妹都市間交流や市民交流支援などの国際交流協力、釜山市居住の留学生、外国人に対する支援を行っています。このような財団の紹介を含めて、釜山市と韓国の紹介を行います。

独立行政法人国際協力機構九州国際センター

TEL 093-671-6311 FAX 093-663-1350

URL <http://www.jica.go.jp/kyushu>

よりよい明日を、世界の人々と。

(10月9日,10日)

「JICA」「国際協力」「青年海外協力隊」「シニア海外ボランティア」に興味のある方、あなたのための「国際協力相談コーナー」を設置します。ぜひこの機会に、国際協力のこと、気軽にご相談ください!

(財)日本ユニセフ協会九州本部

TEL 092-476-2639 FAX 092-476-2634

守りたい。すべての子どもの命と未来。

(10月9日,10日)

世界の恵まれない子ども達を支援しているユニセフ(国際連合児童基金)の活動内容と、開発途上国の子どもの現状を紹介します。ネパールの水がめの重さを体験してもらいます。

(特活)グローバルライフサポートセンター

TEL 092-441-0036 FAX 092-441-0277

URL <http://www.npo-global.jp/>

ホッと・安心・ふくおか!

(10月9日~11日)

「グローバルライフサポートセンター」は、日本で暮らす外国人の方々や安全で安心な生活ができるよう、市民の方の立場に立って考えます。役所や任意団体などとの架け橋になり、よりよい解決策を提案していきます。

(財)オイスカ西日本研修センター

TEL 092-803-0311 FAX 092-803-0322

URL <http://ww6.tiki.ne.jp/~oisca>

やさしく、つよく「人づくり」「国づくり」

(10月9日,11日,12日)

「人づくり」「国づくり」をモットーに農林業を媒介とした青少年の研修、育成をアジア地域において地道に行いまもなく半世紀になります。今回の出展ではオイスカ研修生の汗の結晶である民芸品、無農薬野菜を見て頂きます。

(特活)九州海外協力協会

TEL 092-415-6536 FAX 092-415-6518
URL <http://www.joca-kyushu.or.jp/>

(10月9日,10日,13日)

「若者は途上国からこそ学ぼう！シニア世代はもっと人生の充実を！」というテーマでパネル展示等を行います。

「アジア、アフリカの視線を肩に受けて！」

福岡・USオークランド友好協会

TEL 092-521-0845 FAX 092-521-6711
URL <http://fofa.web5.jp/>

もうすぐ50周年、僕達は、からだでアメリカを感じた

(10月11日～13日)

福岡市とオークランド市の間で姉妹都市が締結され2012年で50周年を迎えます。第1回の学生派遣から、福岡とオークランドの異文化交流を体験し、更に学生交流の機会を深め次の代へと継続しています。

福岡県JICA派遣専門家連絡会

TEL / FAX 092-895-9681

(10月10日,11日)

文化や風習が異なる途上国での技術協力には、日本では考えられない困難に出会います。JICA専門家の経験を基に、その実情をお知らせするとともに、これから技術協力に参加される方の参考になりたいと思います。

海外技術協力の現場を語る(技術協力の語り部)

国連NGO世界平和女性連合

TEL 092-533-2961 FAX 092-533-2963
Mail wfpwfu@moon.sannet.ne.jp

(10月10日～12日)

アフリカのルワンダの職業訓練学校支援を行い、女性の自立支援をしています。また里親制度を通じ、学校に通えない子供達を支援しています。

アフリカのルワンダの女性自立支援

くるんて〜ぽの会

TEL / FAX 092-586-4650
URL <http://krungtep.ngpo.jp/>

(10月10日～12日)

タイ・バンコクのクロントイ地区にあるスラム街で現地NGO「ドゥアン・プラティープ財団」を通じ、経済的に恵まれず学校に行けない小学生・中学生などへの教育里親活動。

瞳の輝きと微笑みをいつまでも！

(特活)明日のカンボジアを考える会

TEL 092-851-2001 FAX 092-851-2008
URL <http://www.geocities.jp/factjp2001/>

(10月11日)

私達が協力している「カンボジアの伝統的な絹緋や綿織物の復興による地域開発」の取り組みを紹介します。甎った布をご覧になりながらカンボジア産のコーヒーでおくつろぎください。布や小物も販売いたします。

カンボジアの伝統染織の復興を支援しよう

アジア開発銀行福岡NGOフォーラム

TEL / FAX 092-920-1873
URL <http://fna.ngpo.jp/>

(10月11日,12日)

伝統を受け継ぎ、自然と共に日々を送るひとびと。手作りの小物にこめられた彼らの思いも、国際協力にはいろいろな形がありますが、現地の人の声を聞き、一緒に考えること、そのきっかけをお届けしたいと思います。

いろんなかたちの国際協力

債務と貧困を考えるジュビリー九州

TEL / FAX 092-623-8444
URL <http://jubileekyushu.org/>

(10月11日,12日)

世界の貧困問題を解決するためには何が必要なのか？ということについて、開発それが生み出した貧富の格差、債務問題などの視点から考えましょう～私たちは開発援助の問題に政策提言という方法で取り組むNGOです。

貧困問題を解決するためにボクたちにできること

福岡県青年国際交流機構

TEL 092-712-6397 FAX 092-712-4509
URL <http://www.lyeo.or.jp/ja/index.htm>

(10月11日,12日)

内閣府のプログラムで海外に行けることをご存知でしょうか？船や飛行機に乗って様々な国の青年たちと交流ができます。ブースではその内容や応募方法をOBが直接ご説明します！是非お越しください！！

船や飛行機に乗って世界を見に行こう！

(特活)ソルト・パヤタス

TEL / FAX 092-939-3633
URL <http://www.salt.or.tv/>

その子とつながる、心がつながる！

(10月13日)

学校に行きたいのに、お金も食べるものもなく行けない子どもたちがいます。貧しくても明るく頑張る現地の子どもたちをいっしょに応援しませんか？

JVC九州ネットワーク

TEL 092-921-0696
Mail jvcqnet@hotmail.co.jp

コーヒー一杯からはじまる国際協力

(10月13日)

福岡にて、JVC(特定非営利活動法人・日本国際ボランティアセンター)カンボジアが実施する農村開発プロジェクトや、カンボジアにおいてHIV/AIDS孤児支援を行うNGOへの支援活動に取り組むNGOです。

(特活)アジア太平洋子ども会議・イン福岡

TEL 092-734-7700 FAX 092-734-7711
URL <http://www.apcc.gr.jp/>

福岡で育むこども達の国際交流

(10月12日)

私達は、日本をはじめとするアジア太平洋地域のこども達に対して、異文化に触れ、お互い理解し合うための国際交流の場を提供している民間の非営利団体です。今回は、中学生ボランティアが活動の様子をご案内します。

(特活)バングラデシュと手をつなぐ会

TEL / FAX 092-844-1369
URL <http://bangla.ngpo.jp/>

バングラデシュと手をつなぐ20年！！

(10月12日)

将来を担う子どもたちの教育の普及と向上のために「教育分野」、命と健康を守るために「医療分野」活動しています。出展ブースでは、現地の様子を写真やパネルで紹介するほか、バングラデシュの民芸品や紅茶もご用意♪

(特活)NPO法人 エスペランサ

TEL / FAX 0946-24-9263
Mail chi3e2ko@forest.ocn.ne.jp

ギニアビサウでの学校運営と里親事業

(10月13日)

ギニアビサウでの小学校運営と里親事業を中心に、日本での普及啓蒙活動を行っている。貧困から脱するには教育からの信念に、青少年育成に力を入れている。現在、中学校建設に向け準備中。

個人ボランティア(企画運営ボランティア)の皆さん



広報状況

①新聞〔告知〕

読売新聞 10月4日(土)朝刊、毎日新聞 10月3日(金)朝刊、西日本新聞

②ラジオ〔告知〕

LOVE FM 「Community Spotlight」

③タウン情報誌等〔告知〕

「あすみん」情報誌 48号、「イムズクリップ」10月号、
「市政だより」9月15日号、10月1日号
「自治体国際化フォーラム」10月号、「イベント情報カレンダー」ほか
フリーペーパー(「ばど」、「Fukuoka BI: KI」)ほか

④ウェブ〔告知〕

あすみん情報便 <http://www.fnvc.jp/>
ふくおか協働Web <http://www.nvc.pref.fukuoka.lg.jp/portal/>
国際交流イベント検索サイト <http://www.internationalevent.jp/>
サッタモまちかど放送局(インターネット放送局) <http://www.sattamo.jp/> ほか

⑤その他〔告知〕

- 1) 実行委員会の皆さんによる広報
各団体のHP、ニュースレターへの掲載、各団体の会員さんへの働きかけ、各所でのチラシ配布、様々なHPへの掲載
- 2) 福岡国際交流協会、福岡市の広報媒体



「地球市民どんたく2008」を終えて



地球市民どんたく2008実行委員長
牟田 慎一郎
(ハピタット福岡市民の会 代表)

今年、ちょうど10回目を迎えた「地球市民どんたく2008」は、多くの皆様のご協力で無事終了することができました。アジア太平洋フェスティバルとの同時開催で市役所西側ふれあい広場北側緑地で始めて3回目になりますが、今年は、雨に少し降られたものの5日間の全日程で開催できて、ホッとしています。

「地球市民どんたく」の目的は、国際協力に対する市民の関心を高めるとともに、国際協力に取り組む地元のNGO相互のネットワークづくりです。

今回は、26団体のみなさんがたが参加されましたが、このイベントを通じて、それぞれの団体同士はもちろん運営に携わったスタッフやボランティアのみなさんがたとの有意義な交流ができたことと思います。さらに、アジア太平洋フェスティバルと同時開催でしたので、そこに訪れ通りがかりに立ち寄っていただいた多くの一般市民の皆さんへも活動紹介ができたことで、一定の成

果が得られたものと思います。

また、セミナーについては、コーディネーターに佐賀大学の高橋良輔氏を招いて、地球市民どんたくの期間中の開催となりました。期間中にもかかわらず約80名の参加がありました。その中で外務省の川口三男氏のお話しは、とてもわかりやすかったと大変好評でした。セミナー全体に対しても、参加者はもちろんのこと、パネリストの皆さんからも、大変よかったと好評をいただいたことを大変嬉しく思いました。一方、ブースを担当されていた各団体のみなさんからは、参加したかった!という意見も聞かれました。

いずれにせよ、この地球市民どんたくを通じて、いろんな出会いがあり、お互いに勇気づけられ、ヒューマンネットワークにも新たな拡がりを見せたことは、間違いのないことだと感じています。

はじめて、実行委員長の大役を仰せつかりましたが、私がいり動く必要もなく、各班の担当の皆さんや事務局をはじめスタッフの皆さんの頑張りで、非常に有意義な楽しい地球市民どんたくとなったことに、心より深く感謝申し上げます。これを機に、福岡におけるNPOの活動がさらに活発になることを祈念してご挨拶いたします。